

---

研究ノート

---

# 高等学校における「総合的な学習（探究）の時間」における学習評価 2

## ～協同学習におけるグループづくりと評価～

西村 宗一郎

北里大学海洋生命科学部

---

### 要旨

平成30年3月に改正が予定される高等学校学習指導要領では「総合的な探求の時間」（仮称）とし、探究活動の総仕上げとしての在り方を明確化し、小中学校の「総合的な学習の時間」の『探求的な学習のよさを理解する』から、『探究の意義や価値を理解する』としている。このように小中高の「総合的な学習の時間」ではアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れて行うことが求められている。昨年の『高等学校における「総合的な学習の時間」における学習評価 1 ～協同学習における評価～』から本稿の第2報では、協同学習による探究学習を行う上で、主体的・対話的で深い学びのグループづくりと学習評価について考えた。

キーワード：総合的な学習の時間、探究的な学習、アクティブ・ラーニング、主体的・対話的で深い学び、協同学習、学習評価、パフォーマンス評価、ルーブリック

---

### 1. はじめに 「総合的な学習の時間」から「総合的な探求の時間（仮称）」へ

現行高等学校学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標と、平成30年3月に改正が予定されている高等学校学習指導要領における「総合的な学習の時間」の教育のイメージを対比するとともに、平成29年3月に改正された中学校学習指導要領の目標とも比べてみた。また、教育課程部会 教育課程企画特別部会において、高等学校における総合的な学習の時間は、特定の分野を前提とせず、実社会・実生活から自ら見いだした課題を探究することを通じて、小・中学校における学びを基盤としながら、より自分のキャリア形成の方向性を考えることにつなげるものとしている。いわば、生涯にわたって探究する能力を育むための、初等中等教育最後の総仕上げとなる重要な時間である。

一方で、小・中学校と比較して高等学校での取組が低調であるとの指摘もあり、重要性を踏まえた位置付けを明確化するため、名称を、例えば「総合的な探究の時間（仮称）」とする報告がある。

## 現行学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

2016年12月 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」における「総合的な学習の時間」の教育のイメージ

探究の見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の在り方生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- 課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究の意義や価値を理解するようにする
- 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
- 主体的・協同的（協働的）に課題を探究し、互いのよさを生かしながら、新たな価値の創造やよりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる

（傍点筆者）

平成29年3月に改正された中学校学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （1）探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- （2）実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- （3）探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

（傍点筆者）

探究的な学習の方法としてより具体的にアクティブ・ラーニングの手法を全面的に取り入れていることが窺える。

## 2. 協同学習における主体的・対話的で深い学びを進めるために

探究的な学習の過程での「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編では、以下のように記されている。

「主体的な学び」とは、学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学びである。(以下略)

「対話的な学び」とは、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学びである。(以下略)

「深い学び」については、探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められる。探究的な学習の過程では、各教科で身に付けた「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を活用・発揮する学習場面を何度も生み出すことが期待できる。それにより、各教科で身に付けた「知識及び技能」は関連付けられて概念化し、「思考力、判断力、表現力等」は活用場面と結び付いて汎用的なものとなり、多様な文脈で使えるものとなることが期待できる。(以下略)

このように総合的な学習の時間における探究的な学習は、アクティブ・ラーニングの視点に立ったものである。本稿ではグループによる協同学習による探究的な学習に焦点化して論じていく。前回の『高等学校における「総合的な学習の時間」における学習評価 1』で報告したグループの目標や構成は以下の①、②である。

### ①グループ編成

協同学習は、2つの大きな責任があることを生徒たちにしっかりと認識させることからグループづくりは始まる。1つは、自分の課題を達成することであり、2つ目は、グループの他のメンバーも課題を達成できることを支援することである。

### ②基本的な構成要素

協同学習を成功させるためには以下の構成要素を組み込まなければならない。

- ・グループ全員が目標を達成しなければ、成果を上げたとは言えない状況を作る。
- ・明確な役割分担と責任を果たす。(積極的な参加)
- ・課題解決のための知識やスキルのサポートとともに、すべてのメンバーが人として認めあう関係を作る。
- ・良好な対人関係を学ぶとともに、チームワークを学ぶ。
- ・課題の達成に困難な局面などでの改善の手続きを学ぶ。(話し合い等)

しかし、①、②を生徒に周知しても、グループ活動が円滑に行われているとは限らない。例えば、理科実験の班活動に多くみられるように、実験を行う生徒・記録をする生徒が固定されて、4人班などにおいては他の2人の生徒はほとんど傍観者・実験に不参加でまかせっきりの状態が現出する。この原因としては、下記のようなものが考えられる。

教師側

- ・ 時間内に結果を出させようとする事による教師の指導助言  
（生徒にとっては、失敗をしないために特定の生徒に依存する）
- ・ 時間内に終わることを優先し、結果・結論をまとめようとする。  
（生徒にとっては、考察は教師が伝えるから実験途中は省略してしまう。）等

生徒側

- ・ リーダーの発言権が強く、任せてしまう。
- ・ 教科科目に関心がなく、他人任せにしてしまう。
- ・ 暗黙の了解で特定の生徒に任せる傾向 → この原因が一番多くみられる。等

特に、生徒側の課題として挙げたものは、生徒間での人間関係が構築できていないところに起因している。学校生活の中で、相手に対して言いたいことが言えない、自分の気持ちを一方的に押し付ける、共感できない等である。これは、②で述べた協同学習における基本的な構成要素による成功体験（あるいは失敗体験）がないことに起因する。

このような事態を防ぐために、課題に対するグループ内でのコンセンサスを形成するスキルを学ぶことから始めることが効果的である。担当する理科教育法の講義の中のアクティブ・ラーニングの導入として行ったコミュニケーション能力の向上とコンセンサスの重要性を理解するために、コンセンサスゲームとしてNASAのサバイバルゲーム（資料1）を学生に行ったところアクティブ・ラーニングの視点に立った授業を理解する上で効果があった。このゲームは、NASAが開発したものであり、1970年代から企業における研修にも使用されている。生き残るうえでのアイテムの順位をまず個人で考えて決め、その後グループで個々の意見を提示して、グループで話し合っただけで順位を決め、その後NASAの正解表を配布し個人誤差とグループ誤差とそれぞれの誤差を合計するものである。グループの順位の設定に際しては、多数決や納得することなく大勢に従うことは厳禁であることを周知する。結果として、活発に話し合ったグループほど個人順位の誤差の合計よりグループ順位の誤差の合計のほうが小さい傾向がみられ、コンセンサスの重要性を体感することができた。また、個人順位の誤差が小さかった全体の1/5ほどの学生は、日頃のコミュニケーションが苦手な学生や消極的な性格の学生が多かった。結果として、グループとしての評価が大きく個人としての評価が小さいことや、自分の考えを大切にするとともに他人の考えも大切にすること、さらに納得したら自分の

考えを変えたことを伝えることがコンセンサスを得る上で大切なことであることが経験できる。

### 3. 学習評価

「総合的な学習の時間」における協同学習においては、その学習成果とともに学習活動の評価も行う必要がある。

#### (1) 学習活動の評価について

- ・定められた期間内におけるグループの課題を設定して、達成すべきことを具体化したものを提出する。
- ・一定期間後グループの課題の進捗状況（達成したものと未達のもの、次の段階ですべきもの）を提出する。
- ・毎時間毎に改善リストを提出（資料2）等

#### (2) 学習成果の評価

- ・パフォーマンス評価とは、パフォーマンス課題に対する行動評価である。例としてはプレゼンテーションや、グループでの話し合い、口頭でのグループ課題の計画・進捗状況・報告等が挙げられる。この場合は、ルーブリックによる評価表を作成し、生徒に公開し生徒による自己評価、生徒同士の相互評価にも提供する。（資料3—発表の評価基準表）また、場合によっては協同学習グループごとに重要なものから重要でないものまで、基準の順位づけをさせる。その基準をグループで共有させ、クラスでのコンセンサスを得られるまで議論をすることも必要となる。できた評価表を生徒の活動に適用してもらうことも考えられる。
- ・ポートフォリオ評価とは、ポートフォリオづくりを通して生徒個々が学習の在り方について自己評価することを促すものであるが、協同学習のグループポートフォリオでは、蓄積されたグループのパフォーマンス課題やメンバー個々のパフォーマンス課題を体系的に集めたものでものであり、具体的な内容は、グループとしての成果、グループ活動中の観察記録、メンバーによるグループについての自己評価、メンバーについての自己評価、教師や他のグループの生徒からの評価等である。

### 4. 終わりに

2016年12月、中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」が出され、次期学習指導要領の基本方針が示されている。そこには「何ができるようにするか」という資質・能力の育成を目指した教育課程編成という方針が示されている。現行の学習指導要領の教育課程編成までは、「何を教えるか」が中心であった。今回の答申では「育成すべき資質・能力」として3つの柱として整理している。

- ①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」
- ②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」
- ③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」である。

上記の内容から、協同学習におけるコンセンサスを理解するためのコンセンサスゲーム等によるグループ作りの重要性和「育成すべき資質・能力」を確認するための「どのような力が身に付いたか」を図る学習評価について、パフォーマンス評価などの開発・充実が望まれる。

## 資料 1

## 【NASA 問題用紙】

あなたは班員と共に宇宙船に乗って月面に着陸しようとし、当初の予定では明るい方の月面で迎えに来る母船と一緒にすることになっていましたが、機械の故障で宇宙船が着陸予定地点（母船とのランデブー地点）から200マイル（約320キロメートル）離れたところに不時着してしまいました。

宇宙船もほとんど壊れ、載せていた機械や物品もかなり使用不能となりましたが、なんとかして母船にたどり着かなければ全員遭難してしまいます。問題用紙に書いてある15アイテムは、不時着時に難を免れ完全なまま残っているものです。大事なものからその重要度に従って順位をつけなさい。

品名	個人順位	個人誤差	グループ順位	グループ誤差
太陽熱式FM送受信機				
粉ミルク（1箱）				
磁石				
月から見た星座表				
45口径ピストル（2丁）				
水（19リットル）				
照明弾				
酸素ボンベ（45kg）				
落下傘の絹布				
マッチの入った箱				
救急箱				
携帯用暖房機				
ナイロンのロープ（15m）				
救命いかだ				
宇宙食				
合計				

\* 誤差 = 順位 - 正解

\* 誤差の合計 = 得点

資料 2

改善リスト	
月 日	
月 日	
月 日	
クラス__番号__氏名_____	

毎時提出 内容は、支援・励ましを中心としたもの

- ・自分の行動で本時グループ活動の助けになったこと
- ・次回までに改善すべき自分の行動
- ・グループ、級友の行動・言動について称賛すること

上記の1～3点について日付と1行以上記述する



## 資料 3

発表の評価基準表

項目 \ 基準	A	B	C
声量	声がとおり、よく聞き取れた	声は届いていたが、時々聞き取れないものがあつた	声が全体に通らず内容が聞き取れない
話す速さ	話すスピードが適切で聞き取りやすい	スピードはおおむね適切であつたが一部聞き取りにくい	遅すぎるか早すぎる。そのため全く聞き取れない。
構成	内容がわかりやすい順序	内容の構成に若干の改善の余地	一貫性がなくバラバラ
要点	聞き手が理解しやすく要点がまとまっている	一部聞き取りにくいポイントがやや不明確	ポイントがどこにあるのが不明
熱意	やる気等十分表現されている	人を動かすほどの熱意は感じられない	淡々と発表し、やる気が感じられない

クラス \_\_\_\_\_ 番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

## 参考文献・引用文献・資料

- ・文部科学省、中学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」（2017年7月）
- ・仁木 一、小学校 学級経営 児童の学級への満足感を高めるための対人スキル般化プログラムの開発 青森県総合学校教育センター 研究論文（2016年3月）
- ・岡山県教育庁指導課・高校教育指導班、「総合的な学習の時間」の取組について ～ 探究的な学習の充実に向けて～（2012年3月）
- ・国立教育政策研究所・教育課程研究センター、総合的な学習の時間における 評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～（2012年7月）
- ・国立教育政策研究所・教育課程研究センター、社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則（2013年3月）
- ・国立教育政策研究所・教育課程研究センター、資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究報告書1 ～使って育てて21世紀を生き抜くための資質・能力～（2015年3月）
- ・中央教育審議会・初等中等教育分科会・教育課程部会・生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ資料、「総合的な学習の時間について」（2016年3月）
- ・中央教育審議会・初等中等教育分科会・教育課程部会・生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ、生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）（2016年8月）
- ・西岡 加名恵他編、新しい教育評価入門 有斐閣（2015年4月）
- ・西岡 加名恵他編著、パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる 学事出版（2017年3月）
- ・松下 圭代、日本標準ブックレット No.7 パフォーマンス評価 日本標準（2007年12月）
- ・鈴木 俊裕編、高校生のための「研究」ノート 学事出版（2012年3月）
- ・西川 純、理科だからできる本当の「言語活動」 東洋館出版（2014年3月）
- ・関田一彦他、教育評価の付き合い方 さくら社（2016年2月）
- ・ジョンソン.D.W.、ジョンソン.R.T. 協同学習を支えるアセスメントと評価 ナカニシヤ出版（2016年8月）
- ・文部科学省、高等学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」（2009年7月）
- ・文部科学省、初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）（2016年11月）
- ・コンセンサスゲーム問題 - 砂漠と宇宙（NASA）と無人島 -  
<http://konsensasugame.web.fc2.com/>
- ・中央教育審議会 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（2016年8月）

- ・教育課程部会 生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ 生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける審議のとりまとめについて（報告）（2016年12月）